

平成29年8月19日

桔梗が丘地域にお住まいの皆様

桔梗が丘自治連合協議会長 辻 森 保 蔵  
「市小中規模・配置適正化後期計画、一貫校設置計画」審議委員会

## **「名張市立小中学校の規模・配置の適正化後期実施計画」に基づく 市教委の桔梗が丘地域小中学校再編計画について（お知らせ）**

平素は桔梗が丘地域の振興、発展にご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年度において市教委は、「名張市立小中学校の規模・配置の適正化後期実施計画」に基づき、桔梗が丘地域内の3小学校の統合、桔梗が丘東小学校と名張桔梗丘高等学校施設を活用した小中一貫教育の推進を提案しました。

この件について、桔梗が丘自治連合協議会は「提言委員会」を発足させ、さまざまな情報を収集するとともに、市教委をはじめ関係機関と協議し、意見を述べてきました。また、保護者の皆様、PTAをはじめ、多くの皆様のご意見を集約し、提言を行ってきたところです。

さらに本年度は、桔梗が丘自治連合協議会内に「『市小中規模・適正化後期実施計画、一貫校設置計画』審議委員会」を連合会・理事会・総会の承認を得て設置し、桔梗が丘地域の正式の組織として市教委と意見交換等を行ってまいりました。この間、市議会教育民生委員会との協議も行いました。同時に各校のPTA、有志の皆様も熱心に活動を続けてこられました。ご協力、ご尽力を賜った皆様に厚く御礼申し上げます。

昨日（8月18日（金））、名張市教育委員会は、名張市議会全員協議会において、「名張市立小中学校の規模・配置の適正化後期実施計画（案）の見直しについて」という議題で説明を行いました。その内容を報告するとともに、その内容を踏まえた審議委員会の考えを桔梗が丘地域にお住まいの皆様にお知らせいたします。

この全員協議会における案件は、議会本会議のような議決は行いませんが、説明・質疑応答を経て施策を実行に移す重要な意味を持っています。

## 【名張市教育委員会の計画（主な内容）】

- (1) 桔梗が丘地域内の3小学校(桔梗が丘小、桔梗が丘南小、桔梗が丘東小)については当面現状どおりとし、存続させる。
- (2) 桔梗が丘南小学校通学区域となっている蔵持町原出のうち国道165号沿東側の区域は、蔵持小学校通学区域に変更する。  
桔梗が丘東小学校通学区域となっている美旗地区の一部(池の台ほか)は、美旗小学校通学区域に変更する。  
この通学区域の変更については、経過措置を含め、今後検討する。
- (3) 現在の桔梗が丘中学校を、閉校となる名張桔梗丘高等学校跡地に移転する。
- (4) 北中学校の通学区域を変更する。  
桔梗が丘地域内の中学生は、名張桔梗丘高等学校跡地に移転し、新たに開校する桔梗が丘中学校に通学するものとする。  
蔵持小学校を卒業した児童は、北中学校に通学するものとする。
- (5) 桔梗が丘中学校の移転時期は平成32年4月を目途としているが、流動的である。
- (6) 現在の桔梗が丘中学校の跡地、校舎の利活用については白紙である。
- (7) 小中一貫教育については、推進を図る。

## 【「市小中規模・配置適正化後期計画、一貫校設置計画」 審議委員会の見解】

桔梗が丘自治連合協議会が設置した、「『市小中規模・配置適正化後期計画、一貫校設置計画』審議委員会」は、公表された市教委の計画について、下記のように考えています。また多くの課題があることを危惧しています。

### 記

1. 桔梗が丘地域内の3小学校を現状のまま維持するとする計画は当然のことであると考えられる。
2. 市教委の計画(1)のとおり「当面現状どおりとし、」ということは、今後統合、閉校することがあり得ることになるが、現在の児童数、今後の入学予定者数は、最新のデータによると3小学校とも大きく減少する状況にはない。また児童数が増加している番町もあることから、近い将来に統合や閉校をしなければならないという事態が生じることは考えられない。
3. 桔梗が丘南小学校および桔梗が丘東小学校の通学区域の一部を変更することには断固反対する。

蔵持町原出のうち国道 165 号沿い東側の区域は、蔵持小学校への通学には危険な国道を横断しなければならないことと相当な時間がかかることから、近い位置にあって通学の安全が図れる桔梗が丘南小学校への通学を市教委が自ら定めたものである。

美旗地域に含まれる池の台とその周辺地域は、美旗小学校への通学には距離が遠いこと、安全な通学路がないことから桔梗が丘東小学校へ通学するように市教委が定めた経緯がある。さらに桔梗が丘東小学校への通学をより安全にするため、名張市が土地を買収して専用の通学路を設け、通学児童、住民のために信号機を設置しているという事実を忘れてはならない。

これらの経緯を無視し、居住する「地域」の学校に通学させるために通学区域を変更することは、学童の保護者、未就学児童の保護者として承服しがたく、また地域住民としても容認できない。

地域の事情を十分に考慮した上で、児童生徒の通学負担の軽減と安全確保を図ることは最大限に尊重されるべきものである。

また、通学区域を変更することにより、児童生徒数がより増加する学校、現状からさらに減少する学校が生まれることは必定であり、学校教育の進め方に影響を及ぼす。その結果、統廃合のきっかけともなりかねない。市教委は、該当地域の住民、保護者及び関係者と十分な話し合いを行い、意見、要望に耳を傾けられ小学校通学区域の変更を再考されるよう強く希望する。

4. 桔梗が丘地域内でありながら、中学生の通学先が桔梗が丘中学校と北中学校に分かれていた状況を考えると、地域内の全中学生がひとつの中学校に通学できることは地域の学校としての原点に戻ることにになり、望ましいことと思われる。
5. 桔梗が丘中学校の面積、校舎の現状、校舎増築の敷地の余裕等を考慮したとき、現在の学級数が 10、特別支援学級数が 2 であり、また運動場の面積も十分でないことを考えると、桔梗が丘全域の中学生全員が、今後この中学校で学習することは困難であることは理解できる。
6. 桔梗が丘地域内の中学生がひとつの中学校で学べるよう配置適正化を考えたとき、閉校となる名張桔梗丘高等学校跡地を桔梗が丘中学校として利活用することはやむを得ないことと考える。
7. 小中一貫教育については、学年の段差を少なくし、学習効果を高めることができることのほか、さまざまなメリットがあるとされており、必ずしも反対するものではない。しかしながら、桔梗が丘地域だけが特別の学校組織になることには賛成しない。名張市のすべての児童生徒が、等しく同じ品質の教育を受けられるようにすることが大原則と考える。
8. 名張桔梗丘高等学校跡地を中学校として使用するに際しては、下記のような課題が生じることは明白である。これらの課題に対して、どのような対策を講じ、施策を遂行するか、具体的かつ明確な回答を求めたい。

#### ①通学路の安全対策

安全な通学路の確保が最重要課題となる。中でも通学距離が長くなる桔梗が丘西地域の生徒（徒歩・自転車通学）は 200 名前後と予想されるが、現在の状況では安全といえる道路はない。

#### ②老朽校舎の改修、中学生の学習に合わせた施設・設備

名張桔梗丘高校は築 45 年を経過し、老朽化している。大規模な改修はなされていない。中学生の学習環境を維持するために、全面改修、机・備品等の新調を強く要望する。

また物理・化学・生物実験室やその他の特別教室、設備は高校生の学習に合致するように設計されている。中学生がそのまま利用できない場合も多いと予想される。中学生にとって適切な環境に改修するためには膨大な支出が求められる。児童生徒が整備

された学校に通学できるようにすることは教育行政の責務である。国・県からの交付金、助成金、市の財政面での負担等の根拠を明らかにして住民に示していただきたい。

大切なことは「拙速」であってはならないことと審議委員会は考えている。施策を推進するにあたり、さまざまな課題が生じるなか、「時間がない。急ぐ必要がある」という理由で進めるべき事柄ではない。環境の整った、充実した設備の学校づくりには誰しも異論はないことと思う。市教委は、「努力はしたが、予算不足で改修や施設・設備の整備は十分にできなかった。児童生徒の皆さんには申し訳ないが、しばらく我慢していただくほかはない」ということがないようにする重い責務があると考えている。

### ③維持管理のための毎年の予算確保

桔梗が丘中学校と名張桔梗丘高校を比較すると、学校用地面積は 3.4 倍、校舎敷地 3.2 倍、運動場 2.9 倍である。当然相当な維持管理の経費が必要となる。適切な維持管理ができるよう予算を毎年確実に計上することを約束していただきたい。さらに閉校となる現在の桔梗が丘中学校の維持管理費がこれに加わる。どのように予算措置を講じていくのか、地域住民、市民として明確な説明を求めたい。

### ④人間関係が変わることになる際のケア

初年度は移転したことによって 2、3 年生が新たな人間関係をつくることになる。親しい友人と離れなければならない生徒も出てくる。学習環境が変わることでクラスの雰囲気や部活動にも影響する。生徒数が減少する北中学校は、部活動でのチーム編成に支障が出るおそれがある。北中学校、移転した新桔梗が丘中学校ともに万全のケアが必要と考える。どのような対策をとる計画か、地域住民、保護者として詳しく知りたい。

### ⑤学校は地域コミュニティの核

学校は地域コミュニティの核でもある。閉校は地域にとって大きな財産を失うことになる。現在の桔梗が丘中学校を閉校とし、移転することは桔梗が丘 1 番町のみの課題ではなく、今後名張市が「地域コミュニティ」をどのように構築していくかの試金石になると考える。その方向性、ビジョンを明確に示していただきたい。

これらの課題をはじめ、さまざまな問題点が解決できないようであれば、桔梗が丘中学校の移転、通学区域の変更に関する計画について、桔梗が丘地域として賛成、同意することはできないと考えています。

さらに、これらの課題・問題点に、名張市、名張市教育委員会が真摯に対応し、解決することが、「名張市立小中学校の規模・配置の適正化後期実施計画」を推進させるための第一歩であると認識しています。

学校は子どもが主役です。名張市の未来を担う子どもたちが、夢と希望をもって学べるような学校づくりを市長、市議会議員、教育長、教育委員の皆様にも強く要望します。

---

## <皆様のご意見をお待ちしています>

桔梗が丘地域内の学校問題について、ご意見をお寄せください。手紙、はがき、FAXで。電話でのご意見はご遠慮ください。ご意見には、かならずご住所、お名前をお書きくださるようお願いいたします。

<宛先> 〒518-0626 名張市桔梗が丘 6 番町 1-131-4  
桔梗が丘市民センター 桔梗が丘自治連合協議会 審議委員会  
FAX 0595-65-1206

---